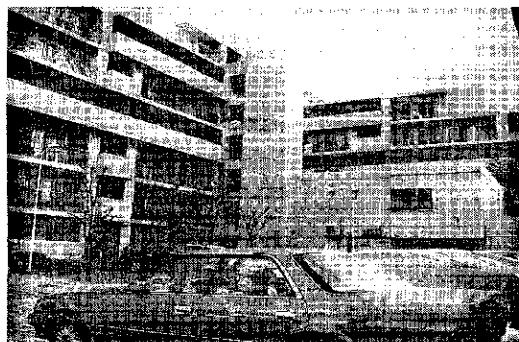


# 赤鑄閉塞率31.7%改善へ



昨年2月にパイプラクターを設置したハイツ高野台



#### バイブルテキストの設置状況

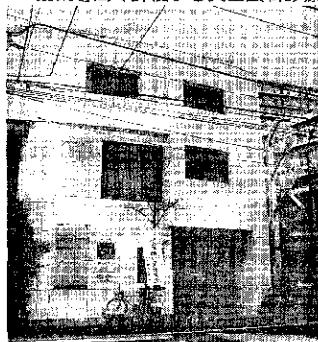
### 施設問題等検討委員会の会報第2号

## 内視鏡調査写真及び設置閉塞率改善一覧表

内視鏡調査箇所	内視鏡調査写真 (設置前)	閉塞率 (設置前)	内視鏡調査写真 (設置 9 カ月後)	閉塞率 (設置後)	改善 閉塞率
308号室 トイレ給水口 第一縦手部手前側		67.5%		46.1%	31.7%



## 効果を高く評価する大田眼科診療所の本高宣士雄院長



大田眼科診療所等が入っています。

## 給水管対策

## N M R 工 法 「パイプテクター」



NMRパイプテクター

# 大田眼科診療所(東京・大田)

## 医師協同組合に推奨したい

## 水道水を飲めるようになった

「いや、誰かで会話をしない始め、始さんから経営する建物の上で同じで十五年目を迎えるが良年、水道本を直接口に科医院や医士さんが經營するので、それで対策をしたことがなかつた。それる喫茶店などが入つて、したけれども考えました。」だといふ。  
が、ハイドエクターをつけた。  
だから、うも、生水を「このビルは二十五年前に前上、医療機器や医療用具などを販売します。  
ひくひくと飲めるようにな、のビルを建築して建築しなどの共同購入等を行つて、ある。同組合の会員でハイドエクターをつけた。おまでもおしくなつたもの。前のビルも五十年代の医師、病人を買つた機会があつて、見る。地元の医師、病人を買つますよ」とさういふ。  
くらしかつたでないか、が会員となる。大森医師協同組合の他の医師組合員とも連携します。  
こう話すのは、東京・大田区で大田眼科診療所を経て、いる。大森医師協同組合の理事の藤原義一である。取り替えたこと。「決して安い買い物ではない。でも、取り替えたところが、もう十分の一程度。  
暮らしている大高富雄院長で驚いた。講二丁だらけの説明書が行わざと贈られましたよ。」  
だ。  
で、四分の「ぐらしかつたがれ」。  
大高院長は薬十五年を迎があいていかつた。だが、「私自身、水道管の劣化に対する効果を最大限に発揮させたため」「死に水」を理屈的理屈を考へた。厚生省の規制などに気を使つておらず、じきに同診療所になつていて、このビルも前

医療院長の大高富士雄院長は、この問題を「医療院長の立場から見ると、大問題だ」と述べ、「医療院長として、この問題を抱えていることは、心苦しい」と語る。大高院長は、この問題について、以下のように説明している。